

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	SORATO (UMIE) いなみ第二教室 ※UMIEいなみ第二教室		
○保護者評価実施期間	令和6年 10月 23日		令和6年 11月 25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	29	(回答者数) 28
○従業者評価実施期間	令和6年 11月 18日		令和6年 11月 29日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 10
○事業者向け自己評価表作成日	令和6年 12月 6日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	放課後等デイサービスとして学習支援に特化し、パソコンやタブレットを使用した学習支援ソフトの「すらら」を使用しています。他にも、カードゲームやボードゲームといった遊びの中からも、学びに対する興味を引き出せるような支援を行っています。	デジタル教材学習「すらら」での取り組みで、時折取り組みを嫌がったり、レクチャー画面をスキップしたりと、取り組み状況に波があったが、職員と一緒に考えながら楽しく行う事で、習慣が身に付き始め、どの児童も課題後やおやつ後に取り組む姿勢が多く見られています。	職員間で児童それぞれの学習状況を毎週月曜日など、定期的に把握していくことで、どの分野での躓きがあるのか、より明確にできると考えられるので、職員間での情報共有の場を設けていく。
2	放課後等デイサービス単独の事業所ではなく、児童発達支援事業所や、今年の9月より、保育所等訪問支援所も併設しているので、連携して支援が行えています。	子どもの成長や、能力の変化によって、出来る限りスムーズな移行や相談が出来るように、事業所内の空き状況が各事業所に把握できるよう情報を定期的に情報共有するようにしています。また月に1回は管理者のみで会議の場を設定し、移行の提案やウェイティングリストの確認を行っています。	スプレッドシートを活用して、併設している事業所間での移行がよりスムーズに行えるような仕組みを取り入れ、事業所間で情報共有しています。

3	<p>集団療育の場では、児童が苦手意識を持ち始めている学習分野に繋がるような内容を、職員がゲーム要素を含ませながら活動内容を考案して活動に取り入れる事で、苦手意識を少しでも克服できるようにしています。</p>	<p>児童の宿題の内容や「すらら」での出来栄を細かく確認し、どの内容で躓いているのか職員間で情報共有し、療育のバリエーションを考え実践しています。</p>	<p>児童が興味を示していることをヒントに、その興味から学習に繋がるような手作りの療育グッズの作成や、既存製品の購入などを検討し、苦手意識の克服や学習に対する興味の幅を広げられるようにしていきたいと思います。</p>
---	--	---	--

	<p>事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること</p>	<p>事業所として考えている課題の要因等</p>	<p>改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等</p>
1	<p>利用定員が満員に近く、送迎範囲が限られている為、現在対応中の地域以外の依頼を受け入れられない状況があります。</p>	<p>一事業所に配置できる人員と利用者数とのバランスの兼ね合いが非常に難しい現状です。</p>	<p>外部の送迎担当ドライバーや、送迎のみ対応できる人員を雇う、といった方法の検討が必要と思われます。また、新規で利用を希望される方については、ご家族での送迎が条件となることを呑んでもらえるかどうか課題になってくると思われます。</p>
2	<p>事業所や職員に不満や疑問に思われる方がいることを真摯に受け止め、改善と信頼の回復に努めていく一方、そういったご意見から、各種関係機関や、学校、保護者様との情報共有の不足、コミュニケーション不足が考えられます。</p>	<p>送迎時間の確認や、行事の予定等で変更があった場合に情報確認不足から、対応に疑問を感じられてしまう事があったので、じっくりと児童や保護者に対して話し合いや連絡のやりとりの場を作る事が今後の課題と考えられる。</p>	<p>学校だより等から、情報を細かく確認し、家庭からの記入内容と相違ないか確認し、疑問が生じた場合は、学校や家庭に連絡確認を徹底する。</p>
3	<p>職員各々が障がいの種類や、児童の様々な特性に応じた支援に関するスキルなどを、一定のレベルまで底上げしていく必要性がある。</p>	<p>障がい分野での業務の経験がまだ浅い職員も勤務されているので、事業所内での年間研修だけでは知識の底上げが不十分だと考えます。</p>	<p>パート職員も含めて児童に関わる取り組み方法等の研修に重点を置きながら、リタリコ発達コラム等を参考にして様々なケースの対応例を読んで頂き、支援のポイントを知って頂く。また、ネット情報や動画配信等を多用し、時間を見つけて視聴して頂き知識の向上に努めて貰いたいと思います。</p>

公表

## 保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 SORATO (UMIE) いなみ第二教室 ※UMIEいなみ第二教室

公表日 令和6年 12月 27日

利用児童数

29

回収数

28

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	96% (27人)	4% (1人)	0%	0%	子どもから鬼ごっこした！等、動きのある遊びをしている事を教えてください。十分なスペースがあるから出来るんだなと思います。	大きい動きが可能な広さのプレイルームを設定しています。鬼ごっこ以外の活動もしてもらえるように、環境を整えています。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	92% (26人)	4% (1人)	0%	4% (1人)	送迎時にお話時に話を聞く限りは大丈夫そうと思います。	今後も、職員の配置数は気を付けていきます。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	100% (27人)	0%	0%	0%		全て「はい」の意見を頂きましたが、今後も利用者様に分かりやすい環境を整えていきます。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	100% (27人)	0%	0%	0%	プレイルームで遊ぶのを楽しみにしています。	全て「はい」の意見を頂きましたが、今後も利用者様に過ごしやすい環境を整えていきます。
5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	96% (27人)	4% (1人)	0%	0%	小学校の先生から言葉の発言について指摘された時に、こどもの様子をすごく見せてくれていて、家で出来るトレーニングを教えてくださいました。こどもや親が不安に思う事に、すぐに対応してくれるので安心して相談出来ます。	今後も利用者様の様子の变化を細かく確認していき、職員間で情報を共有するようにしていきます。	

## 適切な支援の提供

6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	89% (25人)	0%	0%	11% (3人)		今後も公表している支援プログラムと、事業所の提供する支援内容に差異がないようにしていきます。
7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画や放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	93% (26人)	7% (2人)	0%	0%	子どもの行動や言動をよく見て、保護者との話もふまえ、考えて下さっていると思います。	今後も利用者様の困り事や、保護者様のご意見などを考慮した支援計画が作成できるようにしていきます。
8	児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）には、児童発達支援（放課後等デイサービス）ガイドラインの「児童発達支援（放課後等デイサービス）の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	82% (23人)	4% (1人)	0%	14% (4人)		支援に応じた項目を設定しています。今後も状況に合わせた支援内容を設定していきます。
9	児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）に沿った支援が行われていると思いますか。	93% (26人)	7% (2人)	0%	0%	その都度親が気になった事を伝えて支援して貰っているので、多少違うと思います。	必要に応じて、支援計画の見直しを行っていきます。
10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	93% (26人)	0%	3.5% (1人)	3.5% (1人)	季節やイベントを取り入れた様々なプログラムで、子ども達が楽しめる様考えられています。	集団療育では、プログラムが固定化されないように週替わりで内容を変更し、楽しく学んでもらえるよう工夫しております。
11	保育所や認定こども園、幼稚園等、または放課後児童クラブや児童館等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	18% (5人)	0%	21% (6人)	61% (17人)	新型コロナが5類に移行されたとはいえ、まだ難しい状況にあると思います。	地域の方と交流する活動には取り組んでいません。利用者様からの希望がありましたら、その都度検討していきます。

保	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	96% (27人)	4% (1人)	0%	0%	送迎の時に、UMIEでした事、様子を詳しく教えて貰っています。後、メールでの報告も助かります。	契約の際に説明させて頂いています。また、保護者様から質問があった際には、その都度説明させて頂きます。
	13	「児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	85% (24人)	11% (3人)	0%	4% (1人)	私の気になる事や別の話にそれてしまったり、質問があるとしっかり聞いてない事があると思う。	気になる点やご質問がある場合には、説明をさせて頂いた上で対応させて頂きます。
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	89% (25人)	0%	0%	11% (3人)	・参加出来る研修があれば出来るだけ参加したい。 ・様々な分野での研修会や講演会を開催されています。 ・いつも興味深い研修会を開いて下さりありがとうございます。	今後も家族様が参加できる研修会の充実に努めていきます。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	96% (27人)	0%	4% (1人)	0%	送迎時や連絡帳で情報共有が出来ていると思います。	連絡帳に加え、保護者様にお会いした際にはその日の様子をお伝えするようにしています。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	75% (21人)	14% (4人)	7% (2人)	4% (1人)		保護者様との関係を深め、子育てなどの助言が出来るよう、努めていきます。

護者への説明等

17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	86% (24人)	3.5% (1人)	0%	10.5% (3人)		今後も保護者様に寄り添った支援が出来るように、努めていきます。
18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	36% (10人)	11% (3人)	7% (2人)	46% (13人)	・講演会はあるが、保護者同士の交流まではいかない部分がある。 ・保護者会という名目ではないが、講演会等で他の保護者の方とお会いする機会があった。	保護者様のご希望に応じて、保護者会等の開催を検討していきます。
19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	64% (18人)	7% (2人)	0%	29% (8人)		利用者様や保護者様からの相談等に対して、対応の体制は整備していますので、周知して頂けるよう、努めていきます。
20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	89% (25人)	7% (2人)	0%	4% (1人)		送迎時や連絡帳にて、利用した日の様子を伝えていきます。今後も現状の維持に努めていきます。
21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	67% (19人)	0%	4% (1人)	29% (8人)	・細やかに発信等がされていると思います。 ・主にInstagramで見っていますが、どんな遊びをしているか知る事が出来て嬉しいです。 ・SNSも良く見させて貰っています。	主にInstagramにて、施設のイベントなどを発信していますので、周知して頂けるよう、努めていきます。
22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	89% (25人)	4% (1人)	0%	7% (2人)		現状維持に努めていきます。

非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	82% (23人)	0%	0%	18% (5人)		月に一度研修を兼ねたマニュアルの確認を行っていますので、保護者様に周知して頂けよう、努めています。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	79% (22人)	0%	0%	21% (6人)		定期的な避難訓練を行い、災害発生時の為の備蓄を用意しています。
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	86% (24人)	0%	0%	14% (4人)		個別支援計画にて災害発生時の対応を表記しています。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	75% (21人)	0%	0%	25% (7人)	今まで事故などの連絡を受ける事はありませんでした。	現状事故は発生していませんが、そういった場合に保護者様に説明できるよう、理解を深めています。

満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	96% (27人)	4% (1人)	0%	0%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不安な様子は見られません。</li> <li>・学校以外のところでも、信頼できる先生がいてくださることは、子どもにとってもすごく心の安定になると思っています。</li> <li>・家ではUMIEでした事や友達が出来た！！と嬉しそうに報告してくれます。こどもから嫌な事は一度も聞いた事が無いので安心してお願い出来ます。</li> </ul>	良い意見を頂けましたが、現状に満足せず、利用者様により安心感を持って頂けるようにしていきます。
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	89% (25人)	11% (3人)	0%	0%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いつも楽しんで通っています。勉強も集中できるので、安心できる環境があった良かったです。</li> <li>・学童よりも、UMIEが良いと常々言っています。</li> </ul>	良い意見を頂けましたが、現状に満足せず、利用者様がより楽しみにして頂けるようにしていきます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	100% (27人)	0%	0%	0%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2年後に中学に入る際、続けていきたいと本人が少し気にしていました。</li> <li>・いつも見ていただきありがとうございます。今後もよろしくお願いします。</li> <li>・長期休みの預かり時間ですが、もう少し早くする事は出来ないですか？希望者のみでも良いと思います。一度検討して頂けるとすごく助かります。</li> <li>・子供によりそい、保護者からの話も聞いて頂き、温かく対応して頂いていると思います。</li> <li>・色々な事を経験させて貰っていると思います。</li> </ul>	良い意見を頂けましたが、現状に満足せず、利用者様により満足して頂けるようにしていきます。



公表

## 事業所における自己評価結果

事業所名		SORATO (UMIE) いなみ第二教室 ※UMIEいなみ第二教室			公表日	令和6年 12月 27日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	100% (10人)	0%	その日の子どもの人数を考え、筆記での学習スペースや、パソコンやタブレットでの学習スペースを確保する等、事前準備をしています。	利用人数の関係からテーブルの数や机の数が足りない時も考えられるので、職員間で意見交換を行い、机の買い足し等も検討が必要になってくると思います。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	70% (7人)	30% (3人)	法延で定められた職員を配置しております。	配慮が必要な子どもには、可能な限り加配の職員を付けていきたいと思っています。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	100% (10人)	0%	教室等にはネームプレートを使用して、トイレなど利用者がわかりやすく対応できるように準備している。	現状で十分だと考えていますので、改修の予定は現状ありません。

	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	100% (10人)	0%	日々加湿や換気をしながら、快適に過ごせる環境を整えています。また、清掃や消毒も、支援終了後に徹底しています。	現状を維持していきます。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	100% (10人)	0%	子どもからの意思表示があった時は個室に案内し、静かな空間で課題等に取り組めるような対応をしています。	現状を維持していきます。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	90% (9人)	10% (1人)	障害児通所施設支援システム「メイプル日誌Ⅲ」を導入し、業務改善、業務の効率化に努めています。	引き続き、業務の効率化に繋がることを職員間で話し合っています。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100% (10人)	0%	問題点等があった場合は、その時の詳しい様子や対応状況を確認し、改善作業をしています。また、事業所内に意見箱を設置しているので、常に意向等を把握できるようにしています。	現状を維持していきます。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100% (10人)	0%	支援開始前のミーティングの際に、職員間で意見等を把握できるような機会を設定しています。	現状を維持していきます。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	80% (8人)	20% (2人)	第三者評価は現状として取り入れていません。	第三者評価は現状として取り入れていませんが、必要に応じて導入を検討していきます。

10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	90% (9人)	10% (1人)	月に1度、事業所内での座学による、スキルアップの為の研修を実施しています。 また、外部研修に関しては年間の予算内で参加できるようにしています。	現状を維持していきます。
11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	90% (9人)	10% (1人)	ホームページ上に5領域に関する支援プログラムを公表し、その内容に沿った支援を実施しています。	支援プログラムに沿った支援を実施し、その時の様子をInstagramなどのSNSでも発信できるようにしていきます。
12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）を作成しているか。	100% (10人)	0%	個別支援計画等の更新の際は、職員や保護者様と意見交換をしながら作成しています。	保護者様と直接的に意見交換ができる場を作りたいが、共働きからスケジュールの調整が困難な面が多く見られている。
13	児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	90% (9人)	10% (1人)	個別支援計画等を更新する前には、職員間で意見交換を行い、子どもの利益になるように計画を作成しています。	現状を維持していきます。
14	児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	90% (9人)	10% (1人)	計画から逸れないよう、支援計画を適宜確認できる環境を作っている。	閲覧方式での共有方法も取り入れつつ、ミーティング時に全員がその場で同時に把握できるようにしていきます。

15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	100% (10人)	0%	事業所等で様子を伺いながら、ご家庭での習い事の負担等ある場合は、保護者様に相談し、調整を考えて貰うよう提案しています。	今後も事業所での子どもの支援状況により、保護者様との連絡を密にしていきます。
16	児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）には、児童発達支援（放課後等デイサービス）ガイドラインの「児童発達支援（放課後等デイサービス）の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	90% (9人)	10% (1人)	本人やご家族が生活において必要となる支援を、項目ごとに設定しています。	計画書関係の書類では、内容について、出来るだけ分かりやすく端的にまとめられるようにしていきます。
17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	90% (9人)	10% (1人)	週ごとに担当職員を変更しながら、様々なバリエーションを考え導入している。	現状を維持していきます。
18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100% (10人)	0%	毎週の集団療育では、国語の要素があるものと、算数の要素があるものを、隔週で交互に実施できるよう、職員間で工夫して考えられています。	長期休み等は、事業所内で出来る科学や、イベントを検討しながら、療育のバリエーションを増やします。
19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）を作成し、支援が行われているか。	100% (10人)	0%	作られた支援計画を基に、個別活動・集団活動に取り組めるよう日々の課題を設定し、次の支援計画では改めて子どもの状況に合わせた計画にしている。	現状を維持していきます。

20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	80% (8人)	20% (2人)	ミーティングは、朝は正職員のみだが、と支援開始前となる昼前後にはパート職員も含め、出勤者全員で連絡事項やプログラム内容の確認を毎日しています。	役割分担に関しては、もう少し細かく取り組む必要がある。
21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	80% (8人)	20% (2人)	支援終了後は、職員間で打合せを行い、情報共有している。また、パート職員に対しては翌出勤日等に、その時の情報を共有できるようにしている。	現状を維持していきます。
22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	80% (8人)	20% (2人)	連絡帳の記載は常に行い、内容確認も職員間で見直しています。その際に、支援の検証や改善項目についてもその場で話し合っています。	ヒヤリハットは安全が確保されている状況であっても、「もし」等の場面を仮定したことも考えながら記録を作成できるようにし、安全と対策の強化をしていきます。
23	定期的モニタリングを行い、児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100% (10人)	0%	半年に1回を目安にモニタリングを実施し、支援計画書の作成更新を行っています。	現状を維持していきます。
24	【放デイのみ】放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせる支援を行っているか。	100% (10人)	0%	学習支援等やソーシャルスキルトレーニングで自立に向けた支援を実施しています。また、余暇時間等では、カードゲームやボードゲーム等を等も使用しながら、子ども達同士で関りが持てるよう、場面設定をしています。	地域交流といった内容は、現状としてはニーズが少なく、難しい状況だと考えられますが、今後必要に応じて検討していきます。
25	【放デイのみ】子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	100% (10人)	0%	集団療育では、自分で決めた難易度や役割に取り組めるよう、意思決定できる場を設定している。	自主的行動は重要な考えとなりますので、今後も継続していきます。

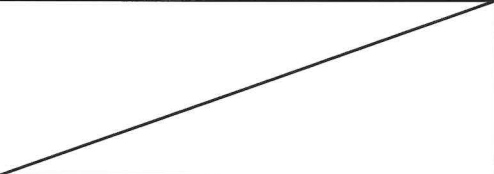
26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100% (10人)	0%	会議が実施される場合は、管理者若しくは児童発達支援管理責任者が参加できるように調整をしています。	現状の対応で継続します。
27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	90% (9人)	10% (1人)	緊急連絡網等を作成し、救急対応の手順や連絡先は職員間でも共有しています。	主治医との直接的なやり取りは難しいが、必要な場合はご家族を通して実施していきます。
28	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	60% (6人)	40% (4人)	地域の児童発達センターとは、直接お話しするようなことは、現状としてありません。	必要に応じて検討していきます。
29	保育所や認定こども園、幼稚園等、または放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	50% (5人)	50% (5人)	保護者様の考えにもよるが、現状としてはニーズが少なく、実施は難しいと考えています。	必要に応じて検討していきます。
30	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	90% (9人)	10% (1人)	送迎時、担当職員が保護者様にその日の状況などを伝えていきます。また、保護者様からも直近の出来事などをお話頂いています。	現状の対応で継続します。
31	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	100% (10人)	0%	3カ月に1回は、併設している事業所間で持ち回りながら講師を依頼し、保護者向けの研修会の場を設けています。	現状の対応で継続します。

32	【 <u>児発事業所・児発センターのみ</u> 】併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。				
33	【 <u>児発事業所・児発センターのみ</u> 】就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。				
34	【 <u>児発センターのみ</u> 】地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
35	【 <u>児発センターのみ</u> 】質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
36	【 <u>児発センターのみ</u> 】(自立支援)協議会・こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
37	【 <u>放デイのみ</u> 】学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか。	80% (8人)	20% (2人)	職員間で下校時間などで不安を感じた時は、保護者様や学校に問い合わせを行い、送迎に対するリスクを最小限にできるよう、工夫しています。	現状の対応で継続します。

38	【放デイのみ】就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	70% (7人)	30% (3人)	児童発達支援事業所と併設しているので、UMIEいなみ第二教室に移行の場合は早急に連絡を取っています。	現状の対応で継続します。
39	【放デイのみ】学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	70% (7人)	30% (3人)	現状として、対象児童が存在しておりません。	事業所のコンセプト上では、対象が小学生までの子どもになるので、そういったケースはほぼ無いと思われるが、もしそういった機会があれば協力できるようにしていきます。
40	【放デイのみ】（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	50% (5人)	50% (5人)	事業所内で勤務時間等の調整は可能な為、なるべく参加できるよう調整していきます。	現状の対応で継続します。
41	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100% (10人)	0%	利用契約時は現状として基本的には書面でのやり取りにはなるが、内容は丁寧に説明しています。支援プログラムはパソコンを用いてホームページに掲載しているものを見せながら説明をしています。	現状の対応で継続します。



42	児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100% (10人)	0%	可能な限り相談支援員や、現場の職員からの意見を聞き、計画書等の作成を行うようになっています。	現状の対応で継続します。
43	「児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	80% (8人)	20% (2人)	計画書を更新する前に、保護者様と新たな目標や現時点の課題をお伝えしながら、目標の設定を行っています。	現状の対応で継続します。
44	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100% (10人)	0%	送迎時に今日の様子をお伝えする他に、一声ですが、困り事や気になる事が無いかを確認し、助言できるポイントは説明しています。	現状の対応で継続します。
45	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	60% (6人)	40% (4人)	保護者向けの研修会の開催を通して、相談できる環境を設定しています。	現状の対応で継続します。

46	<p>子どもや保護者からの相談や苦情、申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や苦情、申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。</p>	<p>100% (10人)</p>	<p>0%</p>	<p>質問や苦情事に対しては、報告があったその日に職員間でミーティングを行い、問題解決の場を開き、対応を行っています。</p>	<p>現状の対応で継続します。</p>
47	<p>定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。</p>	<p>100% (10人)</p>	<p>0%</p>	<p>主にInstagramを活用しています。</p>	<p>現在Instagramで、プライバシー保護に配慮した形での情報発信を行っています。</p>
48	<p>個人情報の取扱いに十分留意しているか。</p>	<p>90% (9人)</p>	<p>10% (1人)</p>	<p>個人情報等の書類関係はデスクに放置せず、鍵付きの書庫にて保管し、USBの持ち出しもしないように配慮しています。</p>	<p>現状の対応で継続します。</p>
49	<p>障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。</p>	<p>100% (10人)</p>	<p>0%</p>	<p>メイプル日誌Ⅲによるスマートフォンを用いた連絡ノートでのやり取りをだけでなく、メール、電話など、保護者様にとって利便性の高い方法で、情報共有出来るよう取り組んでいます。</p>	<p>現状の対応で継続します。</p>
50	<p>事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。</p>	<p>60% (6人)</p>	<p>40% (4人)</p>		<p>現状として地域住民を招待するような行事は予定していませんが、必要に応じて検討していきます。</p>

	51	【放デイのみ】 家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100% (10人)	0%	家族支援加算Ⅰなどの機会を適宜設定し、要望があればその都度面談等を実施できるようにしています。実施後はその内容や結果について記録を作成し、職員間で共有できるようにしています。	現状の対応で継続します。
非常時等の対	52	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	70% (7人)	30% (3人)	各マニュアルは作成後ファイリングし職員がいつでも確認できるよう準備しています。	現状の対応で継続します。
	53	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	70% (7人)	30% (3人)	隣接する施設関係事業所を含め、消火訓練、通報訓練、避難訓練を一連の流れで実施しています。	現状の対応で継続します。
	54	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	90% (9人)	10% (1人)	事業所の見学をされる際に、相談受付表を準備し、その書類に該当する項目がある場合は記入してもらっています。契約前には、相談受付表での記載事項を基にアセスメントを作成し、職員間でも情報共有しています。	現状の対応で継続します。
	55	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	70% (7人)	30% (3人)	事業所の見学をされる際に、相談受付表を準備し、その書類に該当する項目がある場合は記入してもらっています。契約前には、相談受付表での記載事項を基にアセスメントを作成し、職員間でも情報共有しています。	現状の対応で継続します。
	56	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	80% (8人)	20% (2人)	併設している事業所内で主催する事業所を持ち回り担当しながら、避難訓練等を実施しています。	現状の対応で継続します。

応

57	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	90% (9人)	10% (1人)	個別支援計画に緊急時の避難場所等を示す文言を書き加えてお知らせしています。	現状の対応で継続します。
58	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	90% (9人)	10% (1人)	ヒヤリハット、事故報告書、苦情内容等につきましては、障害児通所施設支援システム「メイプル日誌Ⅲ」にて記録し、電子で保管しています。	記載内容が少なく思いますので、今後は細かく状況を確認し、記載していくよう心掛けます。
59	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100% (10人)	0%	虐待防止委員会を法人内で設置しているが、加えて年間研修の一環として虐待研修の時間を設定しています。	現状の対応で継続します。
60	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	90% (9人)	10% (1人)	現状として、身体拘束が必要となるケースは無いが、もしそういったケースが起こり得る場合は、計画に盛り込んでいきますが、まずは身体拘束をしなくても良い方法や環境設定を模索していきます。	現状の対応で継続します。